

教育目標	○深く考えて行動する子(めあてをもち、自ら学ぶ子)	◎思いやりのある子(心優しく、助け合う子)	○健康で明るい子(命の大切さがわかる、たくましい子)
のこり学校 のこり のこり教師 のこり	○子供の学ぶ意欲と喜びのあふれる学校	○いじめのない、子供が安心して通える学校	○子供と地域社会を結ぶ学校
	○学びと体力向上の喜びを与える教師	○現状把握を的確に行い子供の心に寄り添う教師	○けじめある指導を適切に行う教師
			○誠意をもって外部対応できる教師

努力指標は4段階でご記入ください。

努力指標・成果指標の数値は4段階評定です。

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標(中間)	努力指標(最終)	成果指標(中間)	成果指標(最終)	分析コメント	改善策
知	確かな学力の育成	基礎基本の定着	習熟度指導・個別指導の充実、ICT機器の積極的活用、学習習熟度を高めるための家庭学習の計画的な提示	3	3	3	3	低学年ではどの子も十分に習熟が図れるように個別指導を充実させている。ノートの書き方や、家庭学習のアナウンスなど、基礎学力が積みあがる工夫をしている。タブレット型パソコンの活用についてはギガタイム(毎月1回)を設定して、ICT機器の活用方法を学校全体で理解し、正しく使用できるよう工夫している。教科を限定することなく、授業で活用している。	どの子も安心して伸びていくために、学習内容や家庭学習の内容など見直しをもって伝えたり、示したりし続ける必要がある。タブレット型パソコンの活用方法については、各教科の学習場面でどのように活用していくのかを学年で共通理解し、実践する。また、活用していく中で書く学習や子供たち同士で練り上げていく活動が減らないような工夫も必要である。
		読解力の向上に基づく言語能力の育成	計画的な読書活動、教員による読み聞かせや一人読書と本紹介、言語能力育成を視点にした日常的な授業改善	3	3	3	3	本好きな児童が多く、担任や学校司書、保護者による読み聞かせ、一人読書など積極的に楽しんでいる姿が多くみられる。漢字を学習する際、言葉集めをして、語彙を増やしている。作文を定期的に宿題にして、文を書く練習を重ね、漢字や語彙を活用するだけでなく、言葉豊かに気持ちを表現できるよう指導している。	朝読書や業間の一人読書は定着してきているが、タブレット型パソコンの活用と読書のバランスを考えていく必要を感じている。学級により、名文暗唱や国語の教科書の巻末にある「言葉のたまてばこ」の活用をしているので、全体で実践の交流機会を設け、授業改善に役立てる。
		体験的な学習の充実	コミュニティ・スクールとして、地域の人材やボランティア、教材を活用した学習(毎学期)、体験的学習を取り入れた授業実践	4	4	4	4	スポーツテストや生活社会科見学引率など、保護者や地域の方々によるボランティアを活用し、体験学習を十分に充実させることができた。また、九小サポーターの皆さんに低学年を中心に児童のサポートのお手伝いをさせていただくことで担任が安心して授業をすることができた。	年度初めに年間計画を立てていく。今後とも計画的に実施していくために見直しをもって連絡や打ち合わせをしていく必要がある。さらに計画になくても柔軟的に対応できるよう、ボランティアやサポーターの皆さんと日常的に学校の情報を共有していただき、開かれた学校を目指す。
徳	豊かな人間性の確立	けじめある学校生活	計画的な授業の実施、学習規律の確立、あいさつの励行、「九小の約束」の徹底	3	3	3	3	挨拶については通年でくり返し指導を行っている。挨拶の大切さや、自分から挨拶をすることの大切さを伝え、気持ちの良い挨拶ができるよう声掛けを行っている。引き続き、自分から気持ちの良い挨拶ができるよう指導したい。代表委員会が行っている挨拶運動も効果がある。九小のきまりや学習規律については、児童の実態に応じて随時、様々な時間で担任や生活指導を中心に指導している。	きまりを守るものの大切さについては、くり返し指導する必要がある。九小のきまりについては、年度初めや学期初めに担任を中心に指導していく必要を感じている。内容について守られていなかったり、理解が不十分だったりする児童の様子を教員間で共有し、児童に合った方法で正しい内容について伝えていく。
		思いやりと感謝の心の育成	児童理解のための教員研修、考え、議論する道徳授業の充実、縦割り班活動、「九小タイム」の充実	3	3	3	3	教育相談全体会を年に3回実施している。内容は巡回心理士の先生の話の聞いたり、通級指導教室について学んだりする等児童理解に役立っている。道徳の時間には、「考え、議論する道徳」の授業作りができるよう役割演技や話し合いの時間を設定している。縦割り班活動や「九小タイム」などで異年齢活動を取り入れ、思いやりと感謝の心の育成を行っている。	教員研修では、決まった内容を毎年行うのではなく、児童の実態に沿った内容を精査していきながら児童理解に励む必要がある。道徳の授業は学年を越えて授業を見合うなど、授業力の向上を目指したい。九小タイムは児童も楽しみにしている活動なので、年度初めに計画を十分に立て、充実を図りたい。
		音楽・芸術活動の充実	音楽集会の実施、学級における音楽活動、図工作品の展示、日本の伝統文化を活かした活動	3	3	3	3	音楽専科を中心に音楽集会を実施し、児童が意欲的に発表を行っている。普段から学級で合唱をしたり、学級活動の中で音楽に触れたりしている。また、今年度は展覧会があり、計画的に児童の作品を展示、鑑賞できた。図工室前には季節の飾りなどが展示してあり普段から芸術に触れることのできる環境が整っている。	連合音楽会や音楽集会の練習・本番では、最後まで協力して取り組むことができた。展覧会では、作品作りに集中したのはもちろん、全校のために後片付けをした。今後の学習でも、自分や学年、学校のために取り組むことを継続的に指導していく。また、普段から音楽・芸術活動が充実できるよう計画・実践を行っていく。
体	健康でたくましい心身の育成	食の教育の充実	体験的な食育の実践、栄養士・調理員との交流、「もぐもぐタイム」	4	4	3	3	毎日の給食時には栄養士が各教室を回り児童の様子を見ている。様々な体験を通して食べることへの意欲や、給食を作って下さっている調理員の方々や食材への感謝の気持ちも高まっている。黙食しようとして自ら意識している児童が多いため静かに食事をしている。また、バランスよく食べたり、片付けをしっかりと行おうという意識は高い。学級活動や総合的な学習の時間の学習を通して、食べ物を大切にす	中間報告同様に給食委員会の取組などが効果的である。引き続き「もぐもぐタイム」の時間を確保や「びっくりデー」などを設定し、完食することや栄養について考えていくことを目指す。クラスによって食べる量が違うが、配膳されたものは残さず食べようとしている態度をほめ、無理のないように見守っていく。
		体力増進に向けた活動の充実	運動量の確保を目指す体育学習、「九小ギネス」～長縄跳び、学級での休み時間の取組、外遊びの推進	3	3	3	3	体育の学習の中でも運動量の確保に努めている。運動量確保のため、教材研究を行い、各学級の実態に合った授業作りをしている。中休みは割り当てられた学年の全員が外遊びをすることになっているので、教員も一緒に外に出るようにしている。一緒に外で遊び、児童と一緒に体を動かすことで運動量の確保や児童理解に役立っている。	外に出るよう声かけをしているが、割り当て日に一部の児童が中休みに室内にいることがある。いろいろな過ごし方を示し、体を動かす良さを伝えていく必要がある。普段からの学級指導も併せてしていくことが大切である。長縄や持久走など、学校全体の取り組みも計画していきたい。
		児童の危機意識の向上	地域との連携を図る避難訓練、登下校訓練、定期的安全指導・朝会・安全点検、危機回避能力の育成	3	3	3	3	繰り返し行っている地震や火事の時の避難の仕方は定着し、しっかりした態度で参加できている。いろいろなパターンの訓練を組み合わせ、有事の際に役立てるように指導を行っている。定期的安全点検や、安全指導を行い安全・安心な学校をしている。	低学年は視野が狭いため、登下校の仕方や歩き方、突然起こる危機回避能力にはまだ課題が残るため、わかりやすい方法で安全に過ごす方法を指導していく必要がある。避難訓練などでは地域の方の協力を得て、地域でも活用できる訓練を計画していきたい。